

特集「京都の土器再考－土師器編－」に寄せて

柏田 有香

本誌、『洛史 研究紀要 第12号』では、特集「京都の土器再考－土師器編－」として、2編の論考を掲載している。1編は赤松佳奈氏による京都の土師器皿の研究史、もう1編は平尾政幸氏の土師器による新たな時期区分の枠組みの提示である。この特集を組むに至った経緯について、少し説明を加えたい。

京都市および京都市埋蔵文化財研究所では、1996年に京都市埋蔵文化財研究所編『研究紀要 第3号』にて小森俊寛・上村憲章氏による「京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究」が発表されて以降、この編年案を年代の基準として発掘調査を行い、報告書を刊行してきた。その経緯については赤松氏の論考に詳しいが、そこでも述べられているように、この編年案の発表からすでに20年以上が経過し、その間に実施された発掘調査によって新たに膨大な量のデータが蓄積された。その中には実年代推定が可能な一括資料も多数含まれる。そうした中、既存の編年観が実態に合わないなどの種々の問題点が挙がってくるようになった。

そこで、それらの問題点を整理し、新たな編年の枠組み作りを目指すことを目的に、京都市内で発掘調査に携わる調査担当者有志が中心となって、2015年の末から勉強会を開催することとなった。各回の検討内容については以下の通りである。

第1回	2015年12月20日	1B・1C段階の検討	参加者18名
第2回	2016年1月22日	2A～2C段階の検討	参加者12名
第3回	2016年3月31日	3A～3C段階の検討	参加者14名
第4回	2016年5月22日	4A～4C・5A段階の検討	参加者20名
第5回	2016年6月18日	5B・6A～6C段階の検討	参加者17名
第6回	2016年7月29日	7A～7C段階の検討	参加者11名
第7回	2016年9月9日	8A・8B・9A段階の検討	参加者10名
第8回	2016年11月20日	9A～9C・10A～10C段階の検討	参加者15名
第9回	2017年2月12日	11A～11C・12A～12C段階の検討	参加者11名
第10回	2017年5月7日	問題点の見直しと総括	参加者17名

以上、計10回にわたって、実際に土器を並べ、検討を進めた。具体的には、平尾氏による時期区分をベースに検討が進められたが、多者の目で見ることによって、新たな発見や疑問点の提示があり、問題点や課題がより明確になっていったように思われる。そして、この勉強会での検討成果を含め、提示されたのが今号掲載の平尾氏による新たな時期区分案である。

今回、特集の副題に「－土師器編－」と付けたのは、今後、土師器と共伴する京都で出土する土器類全てを含めた土器様式を再考したいという目標があつてのことである。それには、当然平安時

代より前の土器である縄文土器や弥生土器、古墳時代から奈良時代の土器なども含み、京都で出土するあらゆる時代のあらゆる土器を対象に、既存の編年案と対比し、追及し続けることが、京都で発掘に携わる我々の使命であるとの考えが前提にある。また、「一土師器編一」についても、これがゴールではなく、今後も日々の発掘調査によって増え続ける資料を基に、常に問題意識をもち、情報を更新し続けていくことが、我々に課された課題である。

最後になりましたが、勉強会に参加していただいた方々の名前を記し、感謝の意を表します。

赤松佳奈、後川恵太郎、李 銀眞、馬瀬智光、奥井智子、尾野善裕、柏田有香、熊井亮介、熊谷舞子、黒須亜希子、近藤奈央、佐藤 隆、清水早織、鈴木久史、鈴木康高、関広尚世、竹本 晃、中谷正和、西森正晃、新田和央、平尾政幸、堀 大輔、松永修平、松吉祐希、水橋公恵、持田 透、南 孝雄、山下大輝（五十音順、敬称略）